

社会福祉法人楽山会 第二稚の実子供の家

平成 26 年度 事業報告

定員 120 名でのスタートとなったが、安全できめ細やかな保育を心がけることを意識してきた。幼児クラスは3クラス編成となり、環境の変化があったが混乱もなく、一日一日の積み重ねにより目標の達成に向かうことができた。

また職員においては、委員会活動の活性化により職員間の協働性が高まり、円滑な運営を行う上で大きな成果となった。

平成 26 年度重点目標

- I 幼児クラス編成の増加による保育の充実
- II 事故防止のためのリスクマネジメントの構築
- III 専門講師による音楽指導の導入
- IV 地域の関係機関との連携
- V 会議や委員会等の活性化
- VI 内部研修の充実

I 幼児クラス編成の増加による保育の充実

幼児クラスが増加したことにより、職員間の連携を強化し、行動にバラつきが生じないように努めた。幼児クラス研修会等で行事の確認や、子どもの動き、職員の動きについて主任を交え細かく話し合いを重ねていき、変更点はできるだけ早い時点で話し合う機会を持ち、行き違いがないようにした。その成果が運動会など行事への参加の子どもの様子に大きな変化がみられた。またお散歩も年齢別、クラス別と様々な組み合わせで出掛けることができた。職員の連携により年間を通して大きな怪我もなく豊かな保育の展開がなされた。

II 事故防止のためのリスクマネジメントの構築

アクシデントに関わらず危険に関しての気づき等も含め、ヒヤリ・ハットの記入を習慣づけ保健会議や危機管理委員会で検証をして、事故につながらないよう職員への意識づけを行ってきた。危険箇所の報告や処理を素早く行うことができた。

III 専門講師による音楽指導の導入

専門講師による4、5 歳児の音楽リズムを導入した。綺麗な声で歌う、様々な楽器に触れる、表現を楽しむ、と回数を重ねていくことで、子どもたちの柔らかな感覚や感性の伸びを感じられた。

保護者にその成果を発表する場として、三鷹市芸術文化センターのホールにて発表会を行ったところ、高い評価をいただき、子どもや保護者だけではなく職員にとっても良い経験となった。

IV 地域の関係機関との連携

特別な配慮が必要な家庭に対し、適切な援助が行えるよう専門の先生に積極的にアドバイスをいただくようにした。北野ハピネスセンターの巡回指導では、保護者の了解を得た上で観察を進め、その結果を保護者にフィードバックをしていった。また子ども家庭支援センターや児童相談所とお互いに情報交換を行い、子どもの変化を逃さないように努めていった。

V 会議や委員会等の活性化

一人でも多くの職員が職員会議に参加をし、自分の耳で聞き周知事項の確認が出来るように、職員の体制に配慮した保育の人員の確保に努めた。

また、委員会では副委員長を中心として行い、統括者、委員長をアドバイザーとして置いたことで、副委員長に自覚と責任感が芽生え、お互いに協調し合う会を進めることができ活発な活動が展開された。

VI 内部研修の充実

例年に引き続き OJT を行う。より日常業務の中で仕事を通して計画的に指導ができるよう、対象者とその担当でノートを使用して進捗と成長を確認しながら進めていった。ノートの交換をすることで、コミュニケーションツールとしても役立った。

また椎の実子供の家との合同研修には積極的な参加があり、それぞれの気づきや学んだことを保育の中で実践している姿がみられた。外部研修に参加後は、職員会議や保育士会議で報告をし、職員間で学びを共有し、共通理解につながった。

椎の実子供の家との公開保育の実現にいたらなかったことは、今後の課題である。